

2021年4月20日13時30分までの受信48名分。文章は整形しています。

内容は次のようにまとめました。1-2) 頭髪や髪型14、1-2) 制服や服装14、2) シャープペンシル3、3-1) スマホや携帯2、3-2) 化粧2、5) その他9：飲み物、外食、下校時間、校歌、規則の差、着替え場所、時間前集合、瞑目、6) 番外4：教員の態度、遠隔授業 番外は校則とは異なる内容のものです

次の点に注意して記述するとよいです。

タイトルは、書き手が変だと感じた規則に想像がつくこと。課題と同一、感情のみや抽象的ではいけない。適切な具体性が必要。主体と行為（主語と述語）の組み合わせ、意見が加わるとなるとよい

お手本なみ：何故、校歌を歌う；地毛証明とは必ず申請しなければならないのか、制服以外での登下校禁止

もうちょっと：髪質や髪色の申請について、冬の我慢大会、瞑目は必要なのか、頭髪の自由について

最低限はクリア：頭髪のこと、教員のお気に入りについて

変えた方がよい：個人の自由、先生について、小学生の時におかしいと感じたこと

書式は、文頭や改行後は全角1字下げする。段落は考えて設定する。全角と半角は意識して使い分ける

1-1) 頭髪や髪型

校則における頭髪指導の不明瞭な基準について

私が通っていた高校には生徒の頭髪を制限する校則があった。主な内容は「男子生徒の前髪は眉に、横は耳に、襟足は制服のえりにかかってはならない」など長さを定めるものだった。これらの決まりについては清潔感を保ち、高校のイメージを損なうことを避ける意図があることを理解していた。しかし、髪型の規制のうち「ツーブロックの禁止」というものについて私や友人は疑問を感じていた。この校則の範囲内で整髪を行おうとするとツーブロックは最適な髪型であり、風紀を乱すようなものでもない。確かに古いイメージでは良い印象は持たれていなかったかもしれない。しかし、現代においてツーブロックはホテルマンなどのサービス業でも受け入れられる髪型である。校則は時代に合わせて変化させ、柔軟に社会に対応することが求められるルールであると考ええる。そのため私はこの校則が理不尽なものでおかしいと感じた。

高校での頭髪服装検査における検査内容について

私の在籍していた高校は私立高校であったため、服装や髪型の乱れに厳しく年に3回ほど学年集会の後などに頭髪服装検査というものがあった。この頭髪服装検査の目的は服装や髪型の乱れによる規律の乱れを防ぐものである。だが、検査内容には本当に必要なか疑問が浮かぶ内容がいくつかある。男子の頭髪に関しては、ツーブロックといった現代ではありきたりな髪型を禁止しており、衣服の中でも目立たない靴下やベルトに関しても、校章が入っている学校指定のものを身に着けていないと罰則がある。学校指定の靴下やベルトは、市販のものとはデザインなどに大きな差があるわけでもないのに壊れやすく市販のものに比べ高価である。私立高校であるが、生徒の中には金銭的に余裕がない家庭もある。そんな中で学校指定の衣類の中でも目立たない靴下やベルトなどに関してもここまでこだわる必要があるのか疑問に感じており、検査の内容を再考する必要があると考える。

髪型に関する校則と部活動内の規則について

私が通っていた中学校には、「女子生徒は肩に髪が触れる場合は結ぶこと。ただし、ポニーテールはうなじが見えない高さにする。」という髪型についての校則が定められていました。しかし、一方で、一部の部活動内では、部員は原則としてショートカットにするよう強制する規則がありました。このショートカットはうなじが見える長さであり、部活動のこのような規則の存在が許されているという事は、学校が定める校則よりも、部活動内で定められている規則の方が、優先順位が上にあることとなります。私は、ショートカットによって見え

る“うなじ”は問題にはならないが、ポニーテールによって見える“うなじ”は問題にされる理由や、あまりにも存在意義が明確でないこの校則の改正に先生方が頑なに反対し続けている理由が未だに理解できません。

頭髪のこと

男子は、髪の毛が耳や眉にかかったらいけないという校則だった。検査前日に散髪に行っても、1本かかっている、という理由でもう一度検査しに行かなければならない、ということがよくあった。髪を染めることはもちろん校則違反だが、髪を染めていた生徒が、卒業アルバムの写真撮影をしてもらえず、アルバムには名前だけ載っていた。もちろん校則違反をするのが悪いのだが、「アルバム代を支払っているのにね」と言う母の言葉にも納得するものがある。

母は昔から髪の毛が赤く、癖毛だったので、証明書を提出するように言われたことがあるそうだ。髪や肌の色は持って生まれたものなので、その部分を指摘されるとおかしいのではないかと思う。

頭髪の自由について

私の場合、小学校から高校までの間でおかしいと感じた規則や習慣はほとんど無いのですが、唯一挙げるとすれば中学校で行われていた頭髪検査です。少し派手な髪形や刈り上げの位置が高いと先生から注意を受け、直さなければいけませんでした。私自身の考えとしては、あまりにも奇抜な髪形でなければ、生徒の判断に任せるという方針が良いのではないかと考えています。また、私の通っていた高校では、制服は無く、頭髪の長さや色の規則もありませんでした。基本的には自分で考え節度を守って楽しい学校生活を送るという方針でした。こういった方針の中で、自由には責任等の様々なものが伴うことも学べるため、良い経験をができたと思っています。

学校の頭髪規制について

中学や高校において頭髪の規定をすることはおかしいと感じた。前髪が目にかかるような髪型は、視界が確保されず、授業の集中の妨げになるため、まだ多少なりとも理解できる。しかし全く理解不能なのが、地毛から茶色なのに黒く染めることとかの場合である。染めてはならない、は百歩譲ったとしても親からの遺伝であるアイデンティティを上塗りすることはもはや人権を無視する行為であると思う。日本の教育の本質は統一化にあると言われているが生徒一人一人にもアイデンティティを重要視することが将来的にも関わってくると思うし、その厳しい校則によって学校にとっての生徒の理想像をただ押し付けているだけだと思った。また学校は学習する場であるのは間違いないが髪色やツブロックなどの頭髪が学習にとって妨げになるとは到底考えられない。そのため再度校則を見直し、最低限度の規制にするべきだと当時は思った。

地毛証明とは必ず申請しなければならないのか

私の卒業した高校は都立高校であり、入学前に地毛の明るい生徒は地毛証明が必ず必要であった。私自身も地毛が少し明るい茶色であったため提出をしたが、高校入学後に髪を染めても怒られないように出しておくといった悪い方向に活用しようと企んでいる人もいた。水産高校であったため、プールや海での実習や海部活等でほとんどの生徒の髪色が明るくなることが多く、染めたのか色素が抜けたのか判別がつかないこともあったが、地毛証明の確認をすることは一度もなかった。実際、部活や実習で髪の毛の色素が抜けるからといって髪の毛を染めてきた生徒もいた。こういった事例があり、入学式後に地毛証明を確認することがないにも関わらず、周りの人よりも少し地毛の色が明るいというだけで地毛証明を出さなければ入学式で髪色について問い詰められるというのは正しいのだろうか。髪の毛を染めることを禁止するのであれば他にも打てる手があったのではないだろうか。

髪質や髪色の申請について

頭髪検査で髪の毛の色や特徴を申告させたり、明るい色については黒で染めるよう指示をしたりなど、行き過

ぎた指導があるように感じます。自分の髪質は他人とは違うと悩む人もいるかもしれません。日本人=黒髪で、それ以外は認めないと言うような考えは、偏見であり現代にはそぐわないと思います。

頭髪の自由について

私が小学校から高校の間で経験した頭髪の規則は、「髪の毛を巻いてはいけない」、「肩につく長さの髪の毛は縛らなくてはいけない」、「ツーブロック禁止」などがありました。それらの規則はどういった理由があって決められたのか理解していないまま従っていました。今思い返すと、頭髪の自由を制限することによって外見の乱れを防ぎ、心の乱れに繋がることを防いでたのかと思います。しかし、個性を尊重するためには、あまりに厳しく細かい規則は廃止するべきだと感じます。

髪の長さについて

小学生の頃は髪が肩に付く以上の長さでも縛らなくてもよかったものが、中高生になると突然、髪が肩に付いていると髪を縛る様に注意される様になったことです。

頭髪の規則について

私が小学校から高校までの経験でおかしいと感じた学校の規則は頭髪に関する規則である。理由としては頭髪が私生活や学業に悪影響を及ぼすと考えずらい、その上明確な理由も提示せずに頭髪に厳しく理解に苦しむ校則が存在していた。頭髪に関して厳しいというのを具体的に説明すると、男子は、前髪は眉毛より上や耳を出してツーブロックなどが禁止されていた。女子の場合、肩より長くしてはいけない、うなじを出してはいけない、髪留めやゴムは黒のみという校則が存在していた。頭髪の規則を遵守することで教育的価値が生まれるとも思わないため、私はこの規則がおかしいと感じた。

水泳などで茶色になった髪は黒に染めるべきなのか

私の高校で疑問に思った校則は水泳部が髪を黒に染められることである。望んで茶髪になったわけでもないのに強制的に染められることに疑問を感じた。私の学年にはいなかったがハーフの子などに対してはどのような対応をしているのか気になっていた。

頭髪についての問題

私がおかしいと思った学校の規則は、整髪料を使用してはいけないというものである。学校側は清潔感のある髪型にするよう指導をしていた。しかし頭髪には個人差があり、髪質や長さによっては整髪料を使用しないと清潔感のない髪型になってしまう生徒も多い。そのような生徒の場合、髪型が限定されてしまい不満を感じているケースが多かった。世間的に見れば整髪料を使用することは当たり前のことであり、このような規則はおかしいと感じた。

頭髪、服装の規則

中学生の時頭髪、制服などの細かい規制が必要ないと思っていました。高校では校則は厳しくなかったですが、頭髪、服装を理由に生徒が荒れたりすることはなかったように思います。

1-2) 制服や服装

学校の敷地内でガムを所有したり、食べたりすることはなぜ禁じられているのか？

私の出身高校は寮があるのですが、寮内を含めた学校の敷地内でガムを所有することも食べることも禁止という規則がありました。そして、寮にはポイント制がありガムを所有したり、食べたりすることは減点対象でした。（他の減点項目よりも配点は少ない）また、学校内でも先生に知られると注意もしくは反省文を書かされた

り、何らかの罰則が与えられたりしました。ガムを食べながら廊下を移動する、会話するといった一般的なマナーを守る守らないといったことではなく、休み時間や寮での勉強中など誰かが不快な思いをしないように場所や時間を配慮したとしても禁止という徹底した内容でした。また、所有することも禁止だったので、登校する前や途中に食べていた物の残りをポケットやカバンに入れたままにしていることもできませんでした。

自分が今までに違和感を感じた学校の規則や習慣について

私が今までに違和感を感じた学校の規則は、小中学校の頃にあった男子の靴下の色を白に限定するというものです。私自身は吹奏楽部の本番の舞台や、普段の学校生活で白の靴下に比べ、黒の靴下の方がダサくなく、汚れが目立ちにくい黒の靴下を着用したかったのですが、一度なぜ白の靴下である必要があるのかに関して質問をしに行った際に『清潔感があるから』という到底納得のいかない答えを返されたことがありました。規則では同様に、女子は紺ないしは黒の靴下しか着用が認められていなかったのですが、男子が履くと清潔ではない黒靴下をなぜ女子が履くと清潔感があるのか、逆に男子が履くと清潔感のある白靴下がなぜ女子が着用することをよしとしないのが当時は非常に納得がいきませんでした。

制服以外での登下校禁止

部活着はもちろん、学校指定の体操着での登下校も禁止されていたことに疑問を感じていました。高校時代は運動部に所属していたため下校時は遅い時間になります。制服はスカートなので冬は寒いですし暗い道は不安でした。また部室がなかったため着替える手間や場所にも困りました。制服以外での下校がばれると生徒指導室に呼び出され反省文を書く必要もありました。教員によると、しっかり制服を着ていなければ犯罪に巻き込まれるからとのことでした。制服を着ていれば犯罪に巻き込まれないという理由は納得できなかったのでおかしいとおもいました。

これまでの学校生活でおかしいと感じた学校の規則や習慣について

防寒着のこと：学ランの下に学ランから見えなければカーディガンやベストを着用して良かったので、軽くて暖かいベスト型のダウンを着たら、ダウンは高価である為着用禁止と言われた。家にある物を着たのだが、わざわざカーディガンやベストを買うよりは良いのではないかと思った。

指定靴下のこと：中学校入学時は、白でくるぶしから10センチあればどの靴下でも良かったが、途中から校章が入った指定靴下ができた。以前は安いものをどこでも買うことができていたのだが、金額も上がり、指定の店でしか購入できなくなって母が困っていた。

個人の自由

中学校の頃、靴下・靴は白のものでなければならないという校則があった。また高校の頃にも似たようにルーズソックスを禁止している校則があった。あまりにも過度に派手なものを禁止することは納得できるが、個性を尊重しているのであれば各々自由なものを履いてもよいのではないかと考えていた。

小学校から高校までの経験でこれはおかしいと感じた学校の規則や習慣

私は、中高一貫校に通っていた。毎年冬に持久走がある。持ち物はジャージ上下体操服。私がおかしいと感じるのは、準備体操の時に着ていたジャージを、走る際、強制的に半袖短パン姿となり、寒い中外周させられるのだ。ただ、体調も考慮してか、半袖の下、一枚だけ肌着着用は認められている。しかし、この肌着には指定の色があるのだ。紺色、黒、白のみ。指定の色の肌着を着ていなかったとしても口頭注意のみ。全く持って意味が無いのだ。勿論、走り終わった後は、ジャージ着用は認めてられる。何故、ジャージを脱ぎ、肌着まで指定され無ければなら無いのか分から無いのである。

行き過ぎた服装の統一化とペナルティの習慣化

華美な服装が規制されるのは、TPOの観点から納得できるのですが、髪の長さや髪形、スカートや靴下丈の規制、靴や靴下の色を白で統一することは学校生活や成績に直接的関係のないことと考えるため、この規則はおかしいと感じました。また、寒い場合でも制服の上から重ね着をしてはいけないという規則にも疑問を抱きました。他にも、給食を食べきれない場合の委員会取り消しや反省文作成、靴の踵を踏んで歩いた際は靴の没収といった行き過ぎたペナルティについて疑問を抱きました。

中学高等学校で思った制服のこと

私の通っていた中学高等学校では、女子の制服に関して疑問に思う規則があった。一つ目は式典用のスカートについて。この学校では生地の厚いグレーの冬用のスカートが式典用のスカートを兼ねており、春でも夏でも式典日には冬用のスカートを履かなければならなかった。夏休み前の終業式と夏休み後の始業式は、体育館の暑さも極まってスカートの中の不快感が酷かった。夏用のスカートは冬用のものと違って、チェックの柄だった。夏に冬用のスカートを履かなければならない理由がスカートの柄ならば、男子の制服の様に女子も生地だけ変え、通年同じ柄のものにすればいいと思った。

二つ目はストッキング・タイツの着用禁止について。四方を田んぼに囲まれた、田舎に位置する学校は、冬になるとそれは寒かった。特に登下校の際、バスや電車を待っている間は吹きすさぶ風に自身の足をこすって寒さをしのいでいた。このことに関しては、禁止にする理由がわからない。

おかしいと感じた学校の規則や習慣

中国にいる時、学校は月曜日から金曜日まで制服を着るように要求している。そして、中の半袖は学校から贈られた服でなければなりません。コートやジャケットを脱がない場合でも、中は必ず学校の服を着なければなりません。私たちの学校には昼休みがある。この昼休みにはみんなが寝なければならないという要求がある。寝なくても声を出すことができない。眠くない人や勉強が好きな人には不公平だと思うから。これはおかしいと感じた学校のルールや習慣である。

靴下の色は黒でも良くない？

私の所属していた高校では、服装頭髪のチェックが徹底されており、集会や式がある時は終了後に必ず各学年の教員が生徒一人ひとりの服装頭髪の検査を行っていた。髪の長さやボタンの有無、ベルトの着用、爪の長さなどそれぞれのチェック項目がある中で私が特におかしいと感じた項目は靴下の色である。私の高校の正装では靴下の色は黒や白ではなく紺色のみと指定されていた。しかし紺色の靴下は販売されているお店が少なく手軽に買えるものではなく、紺色は黒との色の違いに差がなく検査する場所の明るさや先生によって判断の違いが生じていた。実際に私は紺色の靴下を買って服装頭髪検査の日に着用していくと担当の先生が靴下の色を黒と判断し、納得できず別の先生にもう一度チェックしてもらおうと紺色と判断されるような事があった。私は色の違いに差を感じない為、靴下の色は紺色だけでなく黒も適用されるべきだと考えた。

「校則は誰のための決まりなのか」

わたしがおかしいと感じた学校の規則は、制服検査です。そもそも制服検査は1980年代の校内暴力が問題になりその沈静化のために子供たちを管理するような厳しい校則が取り入れられたのが始まりといわれていますが、40年以上がたち社会の変化に伴い子どもたちが多様化している現在でも男女別に髪型を規定し、中には下着の色まで指定するなど旧態依然とした拘束がなかなか変わっていません。このような校則はいったい誰のためにあるのか疑問に思います。私の場合も中学の時ほど寒く寒い日でも上着を着て学校に登校できるのは冬季期間という学校から指定された期間のみで、それ以外の時期では上着を着ることは許されていませんでした。さらにおかしいと感じたのは、教員になぜこのような決まりをいまだに続けているのかについて訪ねても明確な回答は得ら

れず、教員自身もこの決まりについて理解できていない決まりであるということです。

学校指定

高校生活において、学校指定のものが多すぎるのがおかしいと思います。制服はその学校を示すものであり、これは中学校からあるものなので理解できます。しかし、私の場合高校生になった時、靴（ローファー）やバックなどが学校指定となり不服でした。大学生からは私服ですし、普段から使い慣れているものの方が圧倒的に動きやすいのに、何故わざわざ学校指定とする理由がおかしいと感じました。

制服にもう少し柔軟な対応を

私がおかしいと感じていた学校の規則は、制服についてだ。女子はスカート、男子はズボンで統一されているのは良いが、その日の気温や体調によってもう少し自由が効いてもよいのではないかと感じていた。男子生徒がどのように感じていたかは私にはわからないので割愛するが、私の通っていた中学、高校の女子生徒は冬場の気温が氷点下になるような寒い時でもズボンはおろか、スカートの下にタイツを履くことも禁止されていた。唯一ストッキングを履くことは許可されていたが、正直ストッキングは薄すぎて履いたとしてもほとんど意味がなかった。加えてひざ掛けを使うことも禁止されていたので、冬は寒さに耐えながら授業を受けていた。今考えても健康的にも良くないし、寒すぎて授業に集中できないということにもなりかねないので、制服に関してはもう少し柔軟に対応してくれても良いのではないかと思う。

冬の我慢大会

私の出身は北海道であり、高校も地元の公立高校に通っていた。その時の校則については一つ引かかるものがあった。それは集会時のカーディガンの着用を禁止する、というものでいまだに疑問に思っている。北海道は11月にもなると、真冬といっても過言ではないほど冷え込み、それに伴いカーディガンを着用する生徒が現れる。それにカーディガンは寒さ対策の一環として認められている。仮に学校指定のものでないカーディガンを着用しているなら学校行事にも含まれる全校集会では脱ぐべきだ、という話ならば納得できる。しかし、カーディガンは学校指定のものを着用せよ、と校則にある。なら、いったいどこに問題があるのか。何より先生方の中にはジャンパーを着ている人がいたのだから、暖房に高い金を払うよりも、寒さでストレスを抱えるよりも、カーディガンを着用した方がいい、と思っている。

3) シャープペンシル3

なぜ小学校ではシャープペンシルが禁止なのか

私が小学生の時にシャープペンシルの使用は禁止されていた。しかしながら私はこれはおかしいと思っている。当時はルールを守っていたが今思えばなぜ禁止だったのか考えもしなかった。よく聞く理由として、「筆圧が弱くなる」や「とめ、はね、はらいが書きにくい」ということを聞くが、私はこれらはまだ字を書きなれていない低学年の時にシャープペンシルを持つことによって起きることだと考える。字を綺麗に書くことは大切だが、高学年になってまで筆圧やとめはね云々を規制する必要はあまりないと感じる。またシャープペンシルが盗まれるからという理由もよく聞く。だがこれは盗まれるからといってシャープペンシルを禁止にするなら、他のもので禁止にしなければいけないものも多い。一々盗難の危険を考えだしたらきりがなくなる。結局のところ「シャープペンシルの使用禁止」というルールを作り、それを守らせるというのが本当の目的であったのではないかとも思う。

小学校から高校までの経験で、これはおかしいと感じた学校の規則や習慣について私が通っていた学校でおかしいと感じたことはシャープペンの使用や運動部の活動後、ジャージでの下校が禁止だったことだ。まず、シャープペンの使用禁止の理由としてシャープペンを使用すると筆圧が落ちてしまうためだと教

わった。確かに鉛筆に比べ余り筆圧をかけることがない。しかし、この理由では筆圧が落ちてしまった時にどのような悪影響があるのかが不明である。次に、運動部の活動後、ジャージでの下校禁止については理由を説明してもらっていない。おそらく、登下校時に着用している服装を制服に統一することで第三者が学校に対する信頼を獲得する狙いが考えている。しかし、隣接する他校ではジャージでの下校を許可している。運動部の活動後すぐに下校時間を迎えてしまうため着替える時間も惜しい。さらに、汚れている体にわざわざきれいな制服に着替えてしまう方がおかしいと考えている。以上の理由から私はこれらの校則がおかしいと感じた。

小学校におけるシャープペンシルの使用禁止について

私が学校において不思議に感じたルールや習慣ということについて、小さいことではあるが小学校においてシャープペンシルの仕様が禁止されていたことがふと思いついた。

4-1) スマホや携帯

なぜ私立の高校は携帯使用禁止の校則が多いのか

全国的に見ても公立の高校は携帯を学校内で使用できることが多いのに対し、私立は校則で携帯の使用が禁止されているところが多い。自分が高校生の時、携帯電話の使用が禁止されている理由に関しては納得できたが学校によって携帯が使えることに不公平さを感じ不満に思っていました。

もう1つは、角刈り禁止です。髪型を角刈りにすることで校内の雰囲気が悪くなった事例があったのか知りませんが一番なぞな校則に感じました。

スマホの保管方法と災害

学校に着いたらスマホを所定の場所に預ける。そんなどこにでもある校則が私の高校にもある。授業中にスマホをいじってはいけない。生徒の意識がスマホに向いてはならない。だから回収する。理由は様々で納得のいく説明だった。この校則自体に問題はなかったが二点問題があった。スマホの保管方法とその場所である。私の高校では朝礼時にスマホを用意された麻袋にクラス全員分入れ、全学年のスマホを職員室の角一か所に集めるというものだった。並べもせず一つの袋に一教室分もスマホを入れれば、間違いなく最初に入れたスマホは壊れる。災害が起きたと仮定して、一か所に集めたスマホの上に瓦礫でも落ちたら、それこそ通信手段がなくなる。規則をつくるといっても、詳細を決めなければそれは個々の判断に委ねられる。規則をつくる段階であらかたリスクを予想し組み込んでいくべきだとその時思った。

4-2) 化粧

なぜ化粧は許されないのか

私は高校でも化粧をしても良いと思う。理由は、社会に出たらまったくのノーメイクで通うことがマナー違反とする職場も多いと感じる。私の経験上から、高校三年生のときに、スーツを販売するアルバイトをしていた。そこでは、必ず化粧をしてくるように言われたほど、アパレルや、ファッション業界、店員などでノーメイクはありえないと思った。また、化粧をすることにより、自分自身がこうなりたいという自由や表現を学校側が制限や禁止をするのはおかしいと感じた。高校生は学業の方が優先かもしれないが、化粧をすることによって、成績が悪くなる訳でもない。もしそうならば、化粧をしてもいけないという校則があるならわかるが、してはいけない理由がないと感じる。高校を卒業して、その後すぐ就職する人も多くいる。だからこそ、化粧教育として、高校でも化粧をする必要性はあると思った。

化粧品や整髪料の使用が禁止について

なぜ、学校側の規則として、整髪料や化粧品が禁止になっているのか理解できない。学校に通う多くの人は、

社会人として仕事をするが、その中で、女性の多くは、化粧をしている。また、女性は社会人になったときに化粧をせずに仕事をしている人は、清潔感のない人だと思われる。そのため清潔感を保つという意味では、化粧は社会人にとって必要なものであると私は考えている。男性もまた、清潔感を出すために、整髪料を使う人は増えているため、女性が化粧をすることと同じように必要なことだと思う。現在、ほとんどの学校では、整髪料や化粧品の使用を禁止しているが、高校を出てすぐに社会人になり、化粧をせずに会社に行き、清潔感がないと言われ化粧をしると言われても、今までやってきていないのだから無理な話である。そのため社会で生きるために必要な技術を身につけるとい意味で、化粧品や整髪料を使用を認めてもいいのではないかと私は思う。

5) その他

小学校と中学校で持参する水筒の中身について

自分の通っていた小学校と中学校では水筒の中身は水かお茶に限定されていた。夏の暑い日や体育の授業のある日、運動部の練習がある日などはスポーツドリンクも持参を許可すればいいのに、熱中症やきつい運動などで倒れてしまう生徒が出て水筒の中身は水かお茶に限定されていたこと。

なぜ禁止なのか理解がし難い

私は小学生の時を除く中学生から高校生にかけての約6年間の中で最も疑問に持ち続けてきたことがある。それは学校帰りのコンビニ等に立ち寄りたり外食したりすることの禁止だ。人は誰しも生活の中では摂食することは生きる上で欠かせない。ましてや最も精神や体格などが成長する時期でかつ部活動などに取り組みエネルギーを多く消費することは人生のいつにおいても中学・高校生が最も多く当然に空腹になりやすい時期だ。この時期に人各々が必要とする栄養素を不足してしまうと成長に良くないと私は考える。確かに中学生1学年くらいであればまだ中学生になったばかりで、それぞれの家庭の親御さんは部活後の夕方から夜にかけての学生だけの外出は心配になるかもしれない。しかし空腹を我慢させることを強いることは自由を剥奪していると考えられる上、外食の中で友人と対話などの交流を通して養える対人力を会得する機会を奪ってしまうのではないかと思う。以上から私は帰宅時の外食について禁止することに疑問を持っている。

旧女子高の変わった習慣

自分が高校で周囲の高校から変わっているねと言われたことのある学校の習慣があります。それは学校の終了時間です。周囲の高校の完全下校は8時が多いと聴いていたのですが、自分の高校は完全終了が6時です。まずは自分の高校は約10年前までは旧女子高のため全学年合わせて600人中男子が50人もいないという女子が根強い高校でした。またカリキュラム上1限目から7限目まで授業があり、登校日も月曜日から土曜日でした。7限目終了時間が16時50分でした。様々な要因から部活動や放課後が1時間しかありませんでした。いまでも改善されていない内容ではありますが、放課後の時間を1時間にすることでメリットやデメリットがはっきりしたと思います。メリットとしては部活動では質や量の効率化を計ることが出来ます。デメリットとしては練習量があまり取れないという事です。

何故、校歌を歌う

私の通っていた小学校、中学校、高校では、式典や行事の際に校歌を歌うことが通例でした。おそらく日本の多くの学校も同様ではないかと思えます。私は当時から、何故自分は校歌を歌っているのだろうかかと疑問に思っていました。

校則が学校によつての差が大きい。

自分の高校生では、自転車の校則がありました。ロードバイクやマウンテンバイクは学校に乗って来てはいけないことになっており通学自転車に限定されていました。しかし、他の高校では自転車の校則はなく自由でし

た。他にも高校に登校する際は革靴と決まっておき他の高校は運動靴か革靴が選べます。なぜ、校則に大きな差があるのでしょうか。

みんなが完璧にできなくてもいいのではないか

自分が今までの学生生活でおかしいのではないかと感じたことは主に小学校でよく見られた体育やその他の教科において出された課題ができない生徒に対してできるまで居残りさせたりほかの生徒の進行を止めてまで待たれることです。一見どこに問題があるのかと思うかもしれないですし熱心に教えてもらえているということは理解しているのですが自分はこういったできてないことに対して注目を少しでも浴びてしまうことが苦手で特に小さい頃は怖いときえ感じてしまっていました。だからこそ頑張ろうと自分に喝を入れることもできましたが体育などどうしてもできないこともありました。こんなときの授業は苦でしかありませんでした。自分にも非があることはわかっているのですがこういったことである教科が、授業が嫌になってしまう子はきっといるんじゃないかと思います。何かを達成することを強制するのではなく苦手なことを認めてあげて完璧にできなくてもいいよと思わせてあげる教え方をする教員が増えてほしいなと思います。

小学生の時におかしいと感じたこと

私が小学生の時、体育の授業で女子は教室を使って着替えていたが、男子は廊下の隅の方で着替えてた記憶がある。当時は特に何とも思っていなかったが、改めて考えるとおかしいのではないか。

時間の浪費

私の通っていた高校では一年生の間は15分前行動を徹底する習慣がありました。学校が正式に定めた規則では無いのですが寮もあったことから先輩後輩の上下関係が強く、部活動等に行く際には先輩よりも先に着き部活の準備を行い15分前には並んで待っていなければいけないことや、朝の通学でバスを使う際に一年生は15分前に整列しバスに乗る先輩に1人ずつ挨拶をし先輩が全員バスに乗車すると一年生が乗れるということがありました。部活動の準備をすることや先輩への挨拶は一年生が率先的に行うべきことであると思うのですが、特に意味もなく15分間待ち続けるという点が無駄な行為であると感じました。先輩も一年生の時に経験しているからというだけで代々続いている習慣だったので私達の代が進級し先輩になった際には無駄であるとしこの習慣は無くなりました。

瞑目は必要なのか

私がこれまでの学生生活で不思議だと感じた学校の規則は、授業の初めや終わりや全校集会の前などに瞑目を1分ほど行わなければならないというルールが不思議だと感じていました。これを行うことで心を静める効果があると教えられたが、毎授業で時間を取ってまですることなのかなと感じていたためおかしな習慣、規則だなと感じました。

6) 番外

教員のお気に入りについて

私は、小学生時代に友人やクラスメイトとけんかをするのが数多くあった。理由は様々だが、大抵は「喧嘩両成敗」ということで二人して怒られる、というのがほとんどだった。しかし、小学2年生の頃の担任の先生はそうではなかった。喧嘩の原因がどうであれ、傷をつけた方が悪いという考えで、傷をつけた側の言い分が受け入れられることはなかった。また、質の悪いことに見える傷以外は「暴力を受けた」と受け入れられず、例えばたんこぶなどはあるといってもそれに対しては何の言及もされず、お気に入りの生徒の場合は特にそれが顕著だった。全ての教員がそうだとすることは当然ない。教師も人間だし、教員のお気に入りになれないというのもひとつ問題としてあるが、生徒に教える立場、ましてや小学校低学年の教師がお気に入りを露骨に鼻屑するというの

はいささか問題があるのではなからうか。

先生について

授業中に生徒に間違いを指摘されて謝る先生もいれば、なぜか怒り出す先生もいることです。自分には間違いを指摘されて怒る理由がわかりません。

生徒と教師の間の規則の矛盾

「廊下を走ってはいけない」という規則があるのに、教師は走っていたこと。

一か月限定の対面式オンライン授業

新型コロナウイルスが流行る前のことだった。私が通っていた高校はいつも教育の最先端を走りたがる。その時は万が一登校できない状況に備えて、いつでもどこでも授業を受けるようにオンライン授業を実行しようとしていた。先生によると、夏休み期間中先生たちはほぼ毎日登校して授業用のビデオを撮っていた。そして授業の時はみんなが教室に集まって、それぞれのパソコンを出し、イヤホンをつけて授業ビデオを見た。その後先生がオンラインのグループでディスカッションを始めて、近くに座っている生徒たちはまたオンライングループで討論して、最後にFormsを使って小テストをした。この対面式オンライン授業というシュールな授業にみんなが苦しんでいた。みんなの声が上層部の方に届いたのか、それとも効果が全く見えなかったのか、一か月後にしれっと通常の授業に戻った。今思い返してみると学校の先見の明に感心するが、当時は意味不明だと思った。